

かういつて立方體を、子供の右前におかせ、それから構圖「I」を取出して、「例」のあつた場所に提示し、

「それでは、今度はこれを、今と同じやうにして、その積木で作つて御覽なさい。自分獨りで、考へてやるのですよ。用意！ 始めッ！」

直ちに時計の針の場所を見て覚えておくか、或はストップウォッチをかけておきます。若し一分三十秒たつてもこれが出来ないやうであつたならば、やはり、この検査はそこで打切り、直ちに第二検査に移ります。構圖「I」が九十秒以内に出来上つたならばその所要時間を記録しておいて、それからその次の構圖「II」を出して、今と同じやうにして、子供に構成させます。これも、九十秒間だけで、その間に出来上つたならば、その時間を記録して、今度はその次の第二検査に移ります。

(二) 第二検査—繪畫觀察テスト

(イ) 觀察用繪畫(卷末附録)第一圖(庭の繪)を子供の前に見せておいて、「この繪の

中に何が書いてあるか、知つてゐるだけ言つて御覽なさい。」と命じます。若し子供が途中で言ひ休むやうな場合には、「まだ他にありませんか」といつて、答を促すやうにします。かうして、最初の命令を言ひ終つてから、一分間に述べ立てた個物の名前——犬・鶏・舟等の具體的な物の名——を、子供が答へた都度、その數を○印で、記録用紙に記入して行くのであります。たゞしこの際、繪の中に描き出されてゐない物の名前を挙げても、それは採りません。

一分間過ぎたならば、すぐに第一圖を取去つて、卷末の附録第二圖(病室の繪)を出して子供の前におきます。

(ロ) 第二圖を見せながら、「今度は、さつきのやうに、一つ一つ云ふのではなくて、この繪は何をしてゐるところの繪だか、知つてゐるだけお話をするので。さあ、何をしてゐるところの繪でせう？」かういつて、時計の秒針の位置を見定めておくか、或はストップウォッチをかけます。そして子供が一分間に述べた敘述と説明との數を數へて、別々

に記録するのであります。一分間たつたら、打切つて次の第三検査に移ります。

【註】 叙述といふのは、「子供が寝てゐる」とか、「お母さんが坐つてゐる」とかいふやうに、その繪の場面にはつきりと現はし出されてゐるところの、動作とか、状態とかをありのままに述べることであつて、寝る、坐る、立つといふやうな動詞を用ひて、そこに描き出されてゐる人とか、物とかの有様を述べることであります。但し「本がある」とか、「お母さんがゐる」とかいふのは、それらの物の活動とか、状態とかを述べてゐるのではなくして、たゞそれらの物があるといふことだけしか云つて居りませんので、唯「本」、「お母さん」と列挙するのと大差がありませんから、かやうな、ある、ゐる等は、叙述としては採點しません。

説明といふのは、「子供が病氣で寝てゐる」とか、「お母さんが看病してゐる」とか、「お婆さんがお見舞に來た」とかいふやうに、この表面に示されてゐる、寝てゐる子供とか、藥瓶とかの繪から考へ合せて、この繪の全體の意味を解釋することであつて

病氣とか、看病とか、見舞といふやうな、形のないこと即ち抽象的なことを言ひ表す言葉を用ひて答へたものが、それ／＼一つの説明として採られるのであります。

(三) 第三検査—碁石計量テスト

机の上が黒ずんでゐるならば、白い碁石、若し白つばい机でしたら、黒い碁石を、それ／＼二十個だけ揃へて一團とし、これを子供の左前において、「この中から九つだけ拾つてこゝ（子供の右前を指す）へ分けて下さい」と命じます。間違なく九つだけ拾ひ分けることが出来ましたならば、それを又元の所へ交ぜて一團とし、「それでは今度は十一だけこゝへ拾ひ分けて下さい」と命じます。出来たら又一緒にまとめて、今度は十三、それが出来たら十五といふやうに、一つ飛びに拾はせて行きます。そして十五まで數へ分けることが出来たらそれで、この計算テストは満點とします。

若し最初の九つは出来たけれども、その次の十一が出来なかつたり、數へ違つたりしたならば、今度は逆もどりして、「それでは今度は、十だけこゝへ拾ひ分けて下さい」と

命じます。それが出来ると、九つは出来たが、十一が出来ず、その間の十が出来たのでありますから、その子供の得点を十點といたします。

若し最初の九つが出来なかつたならば、今度は下の方へ一つ飛びに、七つ、五つと進み、若しそのうちの何處かで出来たならば、すぐその上の数を拾はせて見ます。例へば七つは出来ないけれども、五つが出来たといふ時には、五つのすぐ上の六つを拾はせます。若しそれが出来たら、その得点は六點となり、若しそれが出来なければ五點となります。

かやうにして基石を幾つまで正しく拾ひ分けることが出来るかを調べるのであります  
**採點法** 以上三つの検査が済みましたならば、それ／＼その結果を點數に表すのであります。

(一) 第一検査

構圖「例」「I」「II」の三問題とも、それを完成するのに要した時間によつて、次の標

準に照して採點します。

採點時間(秒)	5以下	6—10	11—20	21—30	31—40
採點	10	9	8	7	6
採點時間(秒)	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90
採點	5	4	3	2	1

例へば「例」を八秒、「I」を十八秒、「II」を三十五秒で完成した子供があるとすれば、その得点は九點、八點、六點で、その合計は二十三點となる譯であります。

(二) 第二検査

(イ) 個物列挙——一個を挙げる毎に一點づゝの點數を與へますから、結局その子供の言つた言葉の數だけがその時の合計點になるわけでありませぬ。但し繪の中にない物を挙げた言葉や、ワンワン・コケコッコ・トトといふやうな、幼児語で答へた言葉などは、點數を與へません。

(ロ) 状態叙述——寝る・坐る等の叙述語を一つ挙げる毎に点数二點を與へるのであつて、お母さんとか、本とかいふやうに、個物を挙げたときのものには、こゝでは点数を與へません。

(ハ) 關係説明——病氣とか、看病とかいふ説明語を一つ挙げる毎に三點を與へます。

(三) 第三検査

正しく拾ひ上げた數の中の一番大きい數を以て直ちにその得點といたします。

(四) 合計點

以上の三つの検査の得點を、そのまゝ全部合計して、その子供の智能の得點といたします。

智能評價 右の合計點を基にして、その子供の智能の程度を精密に評價する、特別の方法が出来てゐるのでありますが、それをお話ししようとすれば、標準錯差の點數といふ煩雜なお話をしなければなりませんから、それは近く刊行するところの、拙著「教育的兒童心

理學」に譲ることにいたしましたして、今はほんの大體の見當をつけるといふ意味で、一番簡便な智能指數法で評價する方法だけをお話いたします。

それには、前に述べたやうに先づ右の合計點を、精神年齢に改めなければなりません。それには次の表を用ひるのであります。

合計點	32	33	34	35	36	37	38
精神年齢	4歳0月	4歳3	4歳6	4歳9	5歳0	5歳3	5歳6
合計點	39	40	41	42	43	44	
精神年齢	5歳9	6歳0	6歳3	6歳6	6歳9	7歳0	

例へば右のテストの合計點三十八點を取つた子供があるとするれば、その子供の精神年齢は右の表によつて5歳9即ち五歳六ヶ月であるといふことが解るわけであります。この精神年齢を、その子供の満年齢で割つて百倍して、智能指數を出すといふ方法は、前の言語の發達指數を出す場合と全く同じ方法であります。

## 第二十講 興味型検査法

**準備** この検査は、幼児に行ふ場合と、學童に行ふ場合とで、その準備の仕方が多少異なり、幼児の場合には、一人々々について別々に行ふことを本體として居りますから、次の検査問題だけあれば、他にその答を検査者がその都度記入するところの適當な用紙を用意するだけで、大した準備もいりませんけれども、學童や中等學校の生徒に行ふ場合には、團體式に一齊にやることになつて居ります爲に、その目的の爲に考案された、特別の「興味型テスト用紙」といふものが必要になります。これは名古屋教育研究所で實費でお願ひして居りますから、小學校以上で、多數について一度に試みられる爲には、そのテスト用紙を使用した方が便利かと思はれます。それに小學校の方は、特別に精密な採點法を用ひるやうに、一定の手引書まで出來て居りますから、今こゝで一々詳しくそれを話する

といふことは、到底この小著では許されないことでもありますから、こゝには主として、幼児の検査法の場合を中心とし、それに學童の場合でも、一人々々を検査するといふ場合を豫想して、その方法だけについてお話を進めます。

検査に用ひる問題は次の七類四十九問題であります。

### 興味型検査問題

#### 【第一類】

- 1 珍しいお話を澤山覚えること
- 2 お金を澤山頂くこと
- 3 皆の前で先生にはめられること
- 4 ピアノやオルガンの音を聞くこと
- 5 赤ちゃんを可愛がつて抱いて上げること
- 6 毎朝神様や佛様を拜むこと

7 汽車に乗ること

【第二類】

2 美しい御馳走を澤山頂くこと

3 かけつとして一等賞になること

4 美しい夕焼けの空をながめること

5 多勢のお友達と仲良く遊ぶこと

6 佛様にお花を供へること

7 遠足に行くこと

1 動物園へ行つていろいろの動物を見ること

【第三類】

3 からだが丈夫だといつてほめられること

4 お月様を眺めること

5 小さな子供が路で轉んで泣いてゐるのを起して上げること

6 お正月に神社にお参りすること

7 自動車に乗ること

1 汽車や汽船の中にあるいろいろの器械を見せてもらふこと

2 立派なお家に住むこと

【第四類】

4 ピアノやオルガンを自分でひいてみる

5 雨降りに傘を持たずにぬれてゐる子供を自分の傘に入れて上げること

6 困つた時神様や佛様に助けて下さいとお願すること

7 山に登ること

1 壊れた玩具の電車や自動車を自分で直してみる

2 貯金を澤山ふやすこと

3 唱歌が上手だといつてほめられること

【第五類】

5 人から道を聞かれた時親切に教へて上げること

6 御飯を頂く時神様にお祈りすること

7 水泳ぎをすること

1 新しい文字を澤山教へて頂くこと

2 繪本を澤山買って頂いてしまつておくこと

3 戦争ごつこで大將になること

4 きれいな花を見ること

【第六類】

6 お宮の前を通る時お辭儀すること

7 まりなげをして遊ぶこと

1 繪本を見ていろいろの鳥の名前を覚えること

2 立派な洋服を澤山買って頂くこと

3 縄とびをして勝つこと

4 好きな唱歌を歌ふこと

5 水が足らなくてしほれてゐる草花に水をかけてやること

【第七類】

7 縄とびをして遊ぶこと

1 海の底にどんな動物がゐるか先生にお尋ねすること

2 どんぐりを澤山拾つてしまつておくこと

3 相撲をとつて勝つこと

4 面白い唱歌を聞くこと

5 電車に乗る時順番に乗ること

6. 獨り靜かに神様のことを考へること

検査方法 右の検査問題の第一類の1の問題を中心として、先づそれと2の問題とを比較させ、それから1と3、1と4といふやうにして、1と7との比較まで進め、その都度、どつちが好きかを子供に尋ねて、子供が好きだと答へた方の問題の番號だけを、適當な記入用紙に記入して行くのであります。

例へば、「珍しいお話がたくさん覚えること」と「お金をたくさんいたぐこと」と、どつちが好きですか」と尋ねて、若し子供が「珍しいお話の方が好き！」と答へたとしたら、その問題の番號1といふのを記入用紙に記し、次に今度は1と3との比較でありますから、子供に向つて「それでは「珍しいお話を澤山覚えること」と「みんなの前で先生にほめられること」と、どつちが好きですか」と尋ね、若し子供が「先生にはめられる方が好き！」とでも答へたならば、今度は1よりも3の方が好きだったのでありますから、3といふ番號だけを記入用紙に記しておけばよいのであります。

かやうにして、1の問題を中心として、1と7との比較までの六回の検査が終つたならば、今度は次の2の問題「お金をたくさんいたぐこと」を中心として、それとまだ比較されてゐないところの、3から7までの問題との比較五回を行ひ、それがすんだら今度は3を中心として、これと4以下の問題との比較四回を行ひ、次に今度は4の問題を中心として、これと5以下の問題との比較三回を続け、次に5を中心として、これと6及び7との比較を行ひ、最後に6と7との比較を行ひ、これで各問題が必ず他の問題と一回づゝ比較されたことになり、七問題で合計二十一回の比較が行はれたわけであります。そしてその都度、どれかの番號の方を、一層好きだとして選ばせるのでありますから、記入用紙には、子供の選んだ問題の番號が二十一個だけ記されて居るわけであります。勿論問題は1から7までの七個しかありませんから、その記入用紙に記された、子供の選んだ二十一の番號の中には、同じ番號が幾つも入つてゐるわけであります。

そこでその二十一の番號の中に、1番が幾つ、2番が幾つといふやうにして、7番まで



の各番號の數をそれ／＼計算して、後にそれを各興味型の得點とするわけであります。

第一類が終つたならば、しばらく休むか、或は又別の機會——午前（きん）に第一類をやつたならば、第二類を午後（ごご）にやるとか、或は翌日（あした）にやるとかいふやうに——を選んで、今度は第二類を、前と同じやうにして行ふのであります。この場合には2番から始めて、最初は2と3との比較、それから2と4、2と5、2と6、2と7といふやうに比較して、更に2と1との比較を行ひ、そこまでの六回の比較が終つたならば、次に3を中心として五回の比較を行ふといふやうにして、最後の7と1との比較まで總計二十一回の比較を行ひます。第二類を終つたならば、やはり幼兒の場合には、しばらく休んで第三類に進むやうにいたします。第四類以下第七類に至るまで、その方法は皆同じことであります。

**採點法** 検査がすんだならば、右の記入用紙に記された1から7までの番號を、各類別にまとめ、次に七類全部の合計を出します。それは、各類とも同じ番號の問題は、同じ興味の方角を示す問題を意味するからでありまして、その七つの番號の各々の記入數を求め

ると、それで七つの興味の方角における、その子供の特色を知ることが出来るのであります。

この場合の番號1は理論的興味の方角を示す問題であり、2は經濟、3は權力、4は審美、5は社會、6は宗教、7は活動の各興味型を示すものであります。

**興味型の評價** 右の七つの番號別又は興味型別に數へ上げられた記入數は、それ／＼その興味型の得點となるのでありますけれども、それらの點數が、直ちにその興味の種類を表す値（あたひ）となるとは限りません。例へば満四歳六ヶ月の男の子が1の理論型の得點に於て二十二點をとり、2の經濟型の得點に於て、二十五點を得たとすれば、この子供は、經濟的興味の方が優つてゐるのであります。なせかといふに、理論的興味得點二十二といふ點數は、次の標準の表によりますと、満六歳七ヶ月以上の子供の大部分の者の取る點數であるのに對して、經濟的興味得點二十五點といふ點數は、満四歳二ヶ月以下の子供の大部分

が取るところの点数だからであります。即ちこの男の子は、理論的興味に於ては自分の年齢以上の発達を示してゐるけれども、経済的興味に於ては、自分の年齢以下の情態に止まつてゐるといふことが示されるのであります。

そこで、各興味型について、その合計点が何順位になるのが年齢相當なのかといふことを見出す爲の標準表が必要になるのであります。それが多数の幼児學童を検査した結果から作り出された次の表であります。

この表は、満十歳頃までの標準を示したものでありまして、それ以上の年齢のものは、むしろ右に断つておいた精密な方法による方が望ましいと思つて省いたものであります。

この表によつて、各興味型の大體の発達年齢が定められるのであります。例へば或る女の子が宗教型即ち6番の番號の数が二十五あつたとしますと、その子の宗教的興味の程度が、六歳七ヶ月から六歳八ヶ月の間の一般の子供のもつてゐる興味の程度に相當するものであるといふことが見られるのであります。若しそれを、その子の満年齢と比較するなら

興味型検査得点標準表

發達 年 齡 歲,月	年 齡 歲,月	理論型		經濟型		權力型		美術型		社會型		宗教型		活動型	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
3,9	4,2	19	20	25	24	23	20	20	22	19	20	18	2	23	23
4,3	4,8	20	20	24	24	22	19	20	22	19	20	19	20	23	23
4,9	5,2	21	20	23	24	22	19	20	22	19	21	20	20	23	23
5,3	5,8	21	20	23	23	22	19	20	22	19	21	20	20	23	22
5,9	6,2	21	20	23	23	22	19	20	22	19	22	21	21	23	22
6,3	6,4	21	20	23	23	22	19	19	22	20	22	22	20	22	22
6,5	6,6	21	20	23	23	22	19	19	22	20	23	23	24	22	21
6,7	6,8	22	20	23	23	22	19	18	22	20	23	24	25	22	21
6,9	6,11	22	21	23	23	22	19	18	22	21	24	25	26	22	21
7,0	7,2	22	22	23	23	22	19	17	22	22	25	27	28	21	20
7,3	7,5	23	22	23	23	22	19	17	22	23	26	28	29	21	20
7,6	7,8	23	22	22	22	22	19	17	22	24	27	29	30	21	20
7,9	7,11	24	23	22	22	22	19	17	22	25	28	30	31	20	19
8,0	8,2	24	23	22	22	22	19	17	22	26	28	31	32	20	19
8,3	8,5	24	23	21	22	21	19	17	22	26	29	32	32	20	18
8,6	8,8	25	23	21	21	21	18	16	22	27	29	33	33	20	18
8,9	9,0	25	23	21	21	20	18	16	22	27	30	33	33	20	18
9,1	9,4	26	24	20	20	20	17	16	22	28	31	34	34	19	17
9,5	9,8	26	24	20	19	19	17	16	21	28	31	34	34	19	17
9,9	10,2	26	24	19	18	19	16	15	21	28	31	34	34	19	16

ば、普通以上か、普通か、普通以下かといふやうな程度まで評價することが出来るわけ  
あります。

この興味型の評價方法にも、智能の場合と同じやうな、精密な、標準錯差の點數を出す  
ところの方法が備つてゐるのでありますけれども、餘りに煩雜にわたりますので、その確  
實な方法に関する研究は、すべて近刊の拙著「教育的兒童心理學」に譲つて、こゝでは、  
家庭教育の立場から、家庭で實行出来る程度の、成るべく簡單な方法で大體の見當をつけ  
るところの方法を先づ試みるといふ方針の下に述べられたものであるといふことを充分了  
解していただくかなければなりません。

先づこの方法で一應の研究を、我が兒について試みた上で、これらの研究によつて得ら  
れた兒童心理の常識と、直接兒童を指導された深い體驗とをもつて、更に深遠なる兒童心  
理の研究と、家庭教育の眞髓の體驗とに向つて精進せられることを切望して止まないもの  
であります。

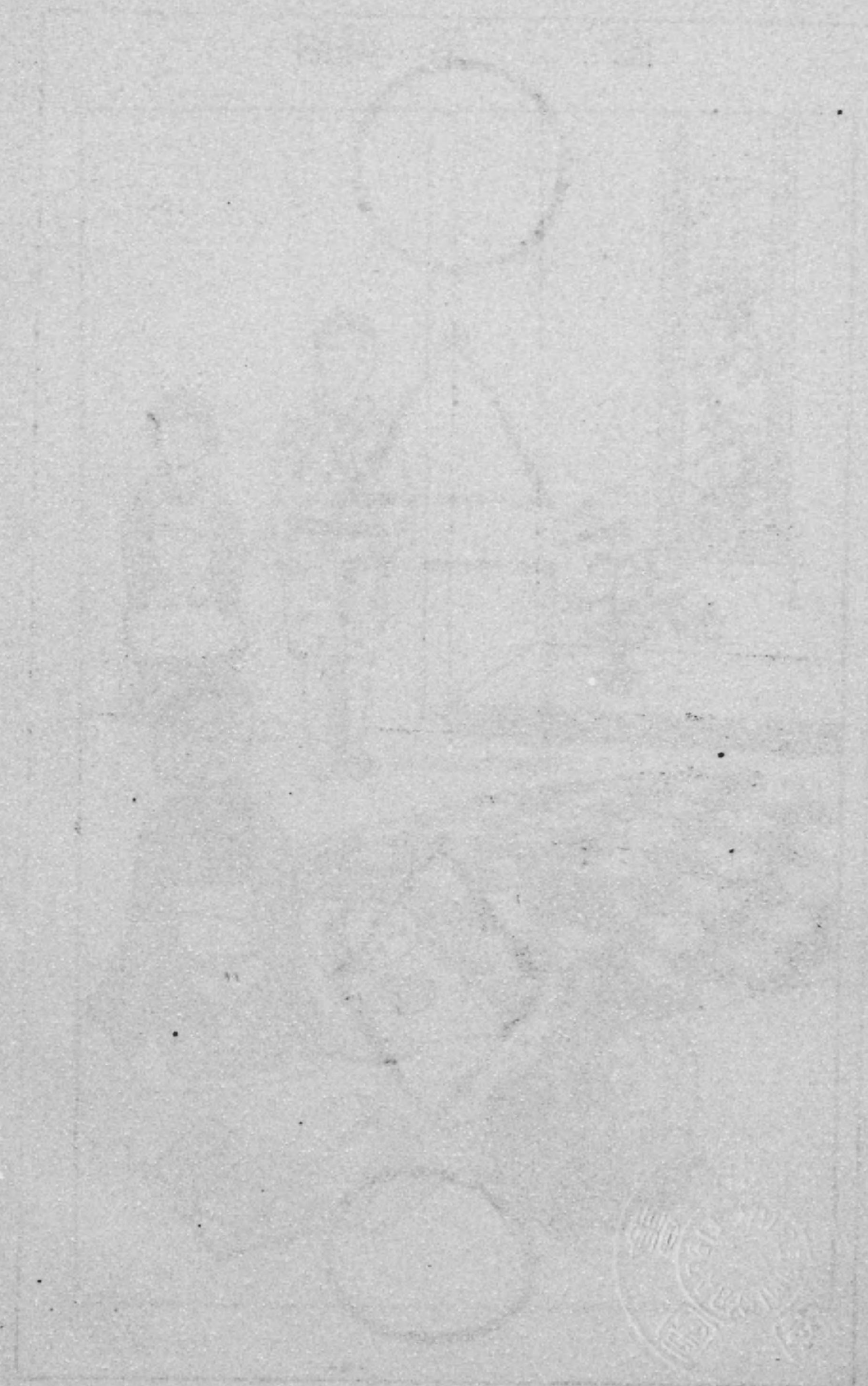
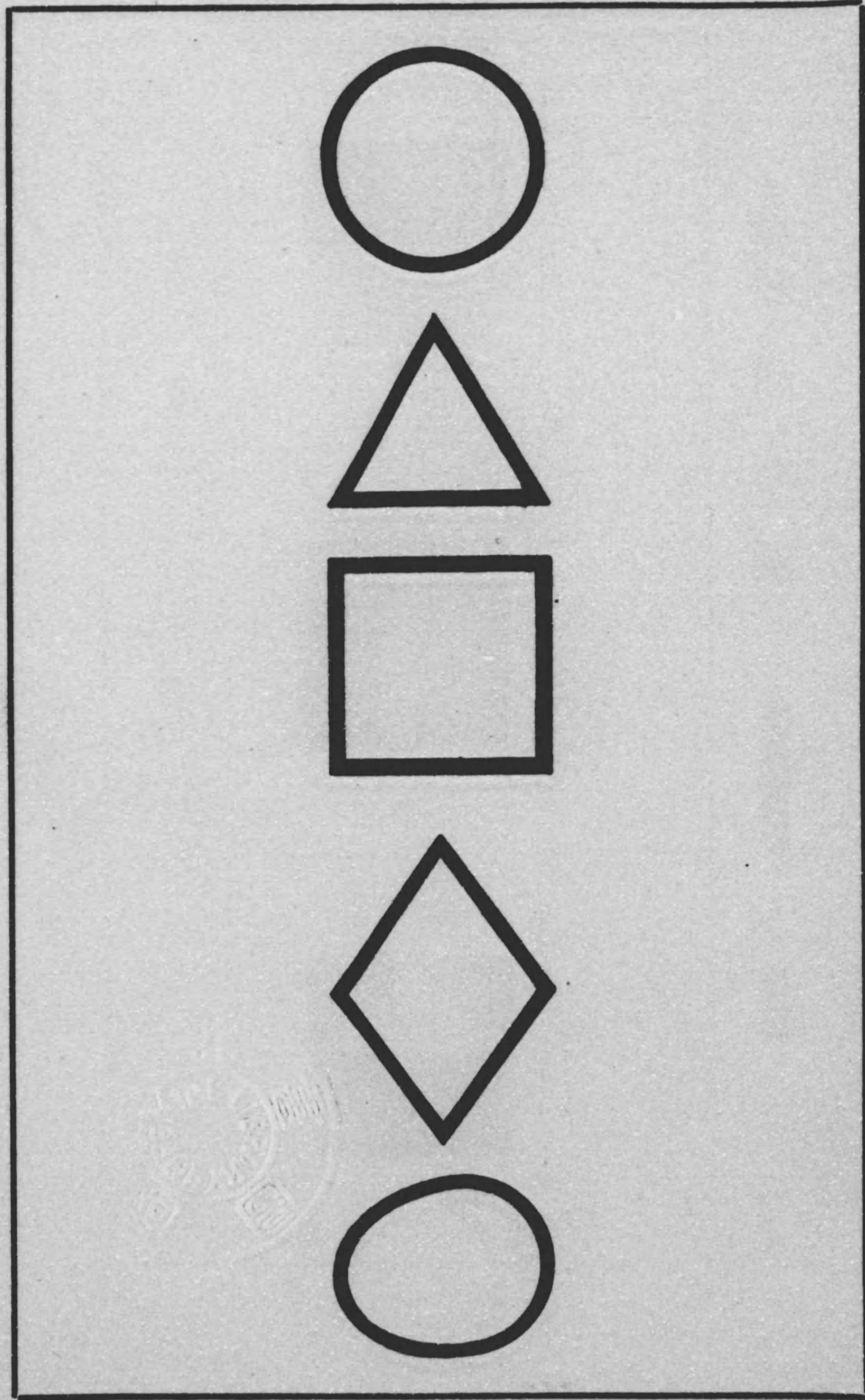
附錄第一圖

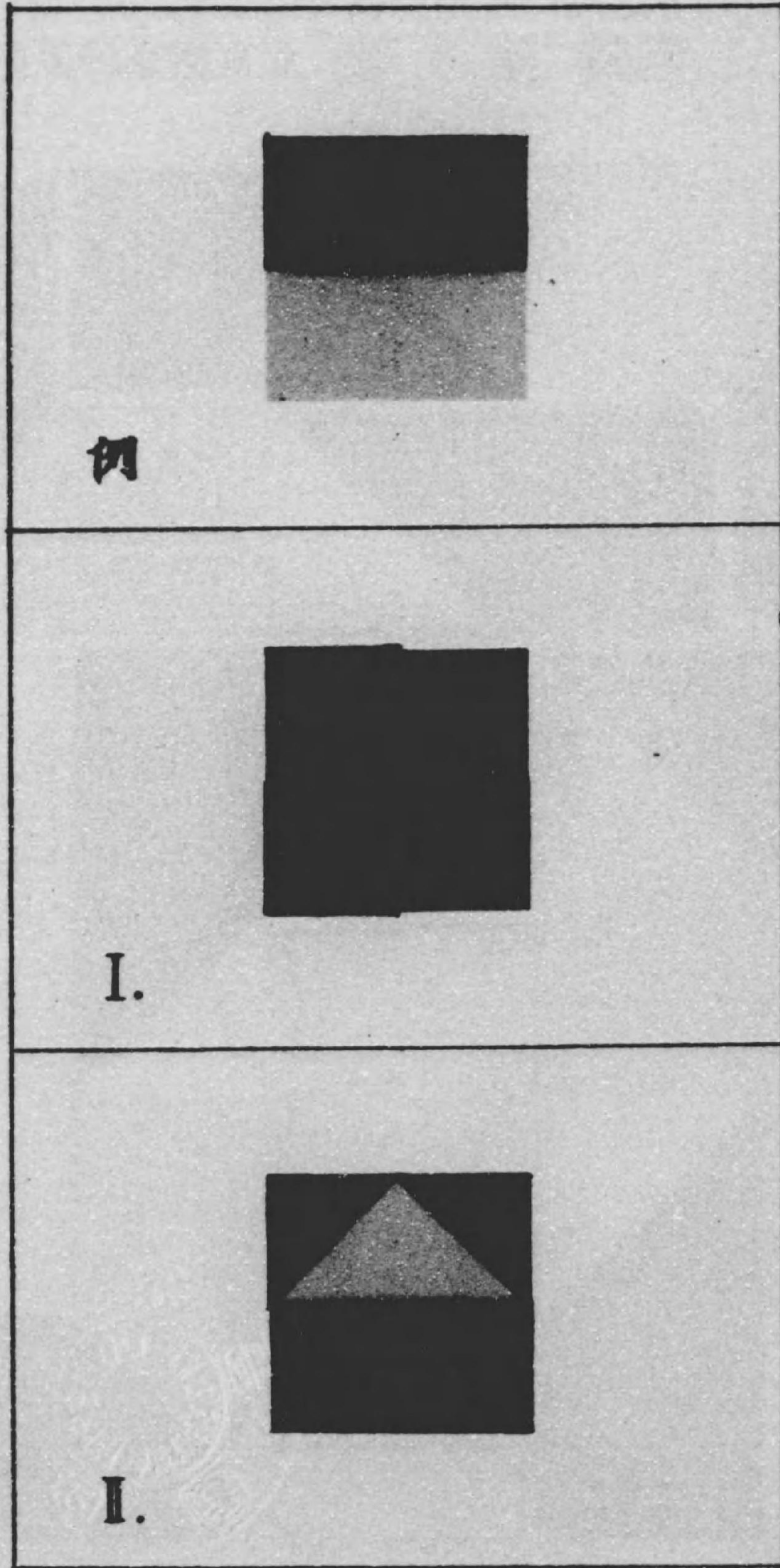


圖二第錄附

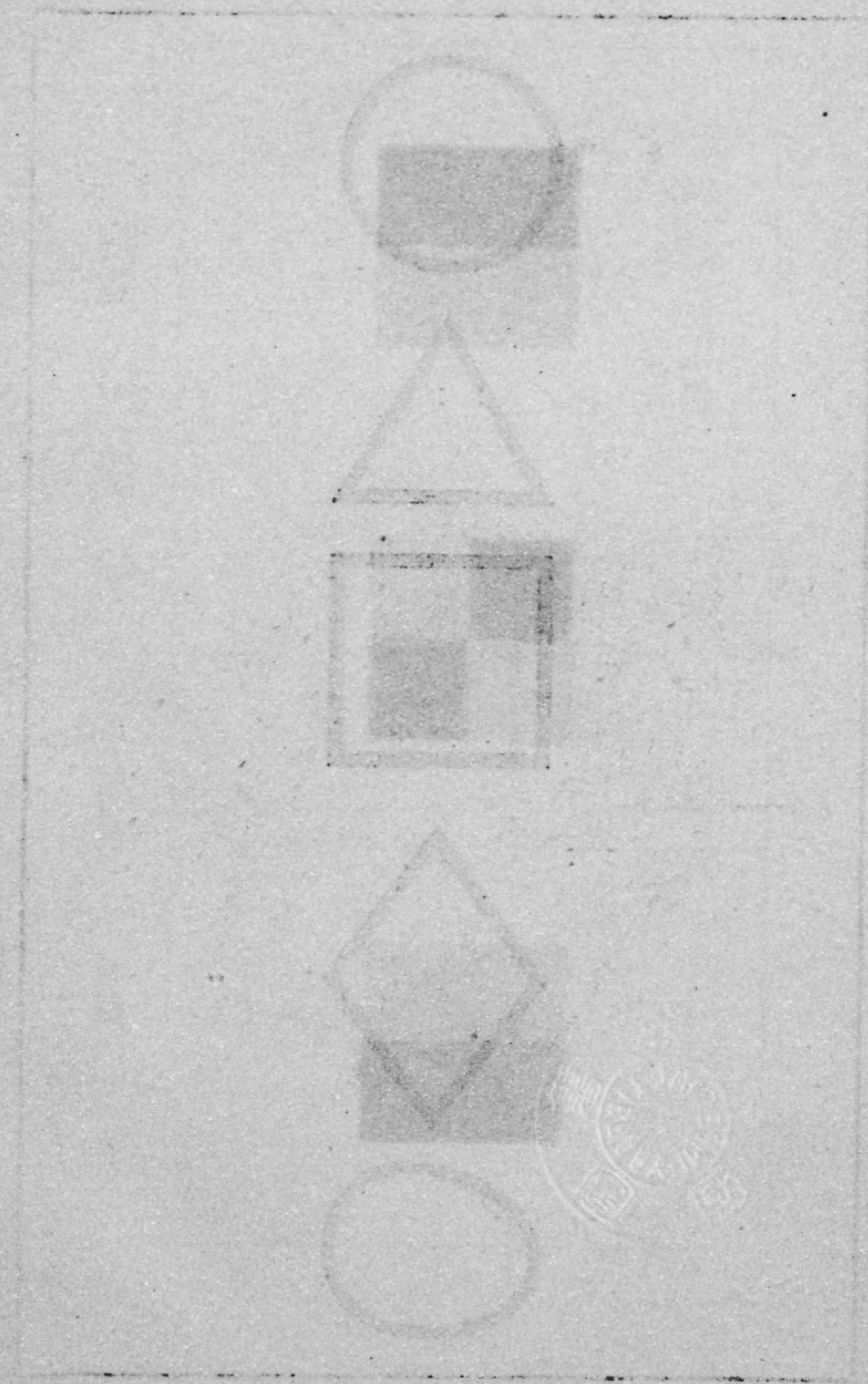


圖 三 第 錄 附

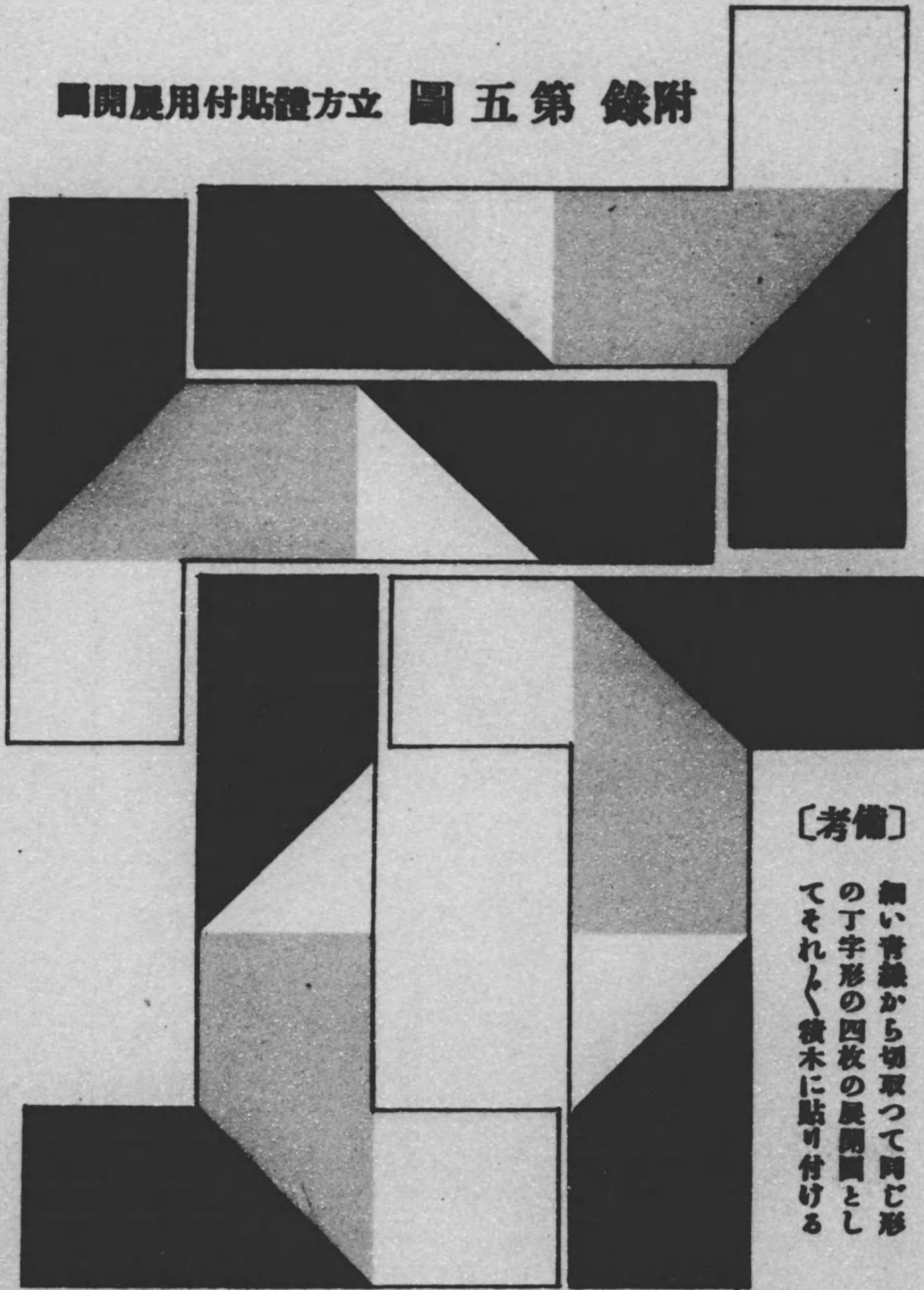




附錄 第四圖 立方體構圖テスト構圖



附錄第五圖 立方體貼付展開圖



〔考備〕

細い青線から切取つて同じ形の丁字形の四枚の展開圖としてそれぞれ積木に貼り付ける



昭和七年十一月一日印  
昭和七年十一月五日發  
昭和八年一月二十日訂正再版發行

【定價金貳圓五拾錢】

版權所有



著者兼  
發行者

名古屋市東區田代町小坂下一番地

石川七五三二

印刷者

名古屋市中區南久屋町三丁目四番地

江場東重

印刷所

名古屋市中區南久屋町三丁目四番地

名古屋印刷株式會社


發行所

名古屋市東區田代町

名古屋教育研究會

總發名古屋九三二〇番  
電話東二九九七番



<p>民國二十一年一月一日</p> <p>中華民國二十一年一月一日</p>		<p>中華民國二十一年一月一日</p>
<p>【...】</p>	<p>...</p>	<p>...</p>

271  
138

ㄨㄨ ㄨㄨ

8年 2月23日 23

○	○	○	○	○	○	○	○	○

關  
聖  
濟

